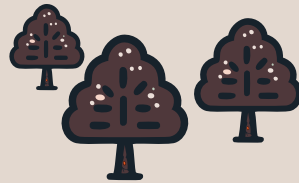


「行けば行くほど山の奥に入ったよう気がします。」

2015年12月4日、ベトナムを出国して日本へ向かいました。実習先の愛媛県は日本で一番寒いところではありませんが、冬の日に家族と離れて日本という遠い場所に行ったのはやっぱり心細かったです。

日本と言えは、現代的な都市を思い浮かべていましたが、空港を出て、研修センターへ行く道は緑しか見えませんでした。長いトンネルをくぐって行けば行くほど、山の奥に入ったような気がしました。

実習先である農業の会社は広い敷地が必要ですが、やはり田舎じゃないと、広い敷地を確保できないようです。



「実際に使われている言葉は勉強したものと違います。」

最初の問題は日本人の話すスピードと言葉です。例えば、日本語学校では「だめ」と教わりましたが、会社の日本人は「いけん」といいます。そして、「ください」ではなく「ちょうだい」、「わかりません」ではなく「わからん」、「います・いました」ではなく「おる・おった」など、実際に使われている言葉は勉強したものと違います。通訳者がいなかったのも、慣れるまで時間がかかりました。

毎朝5時半に起きます。

私の仕事は農業関係なので、時期によって忙しい時があれば、あまり仕事がない時もあります。残業時間も少ないです。そのため、三年間実習生として働き、貯金できるお金はそれほど多くありませんでした。

帰国後、日本語能力がなかったら、せっかく日本に働きに行った時間は無駄になってしまうと思い、日本語の勉強に力を入れました。冬の日も夏の日も、毎日5時半に起きて勉強するようにしていました。フラッシュカードを1日20枚作って単語を勉強していました。



職場での会話で心掛けて いること

実習先での契約を完了したHaさんはベトナムに帰って、日本語教師として勤務しました。技能実習生のときの経験を活かし、職場での会話で大切だと思うポイントを常に学生に伝えていました。

指示を受けるとき、「分かりました」と言うだけなら、指示した人は本当に分かったか気になります。分からないのに分かったと答え、分からないまま作業してしまう人もいます。私の会社では、出荷するまでいろいろな作業があり、どこかの段階でミスがあったら、とても対応しきれない結果につながるかもしれません。リーダーも実習生が正しく作業しているかどうか、いつも見届けることはできません。そのため、受けた指示を繰り返し確認するのは大事です。例えば八時に作業を始めてくださいと言われたら、「八時に作業を始めますね」と確認するといいです。その確認は簡単ですが、とても役に立ちます。リーダーも指示をちゃんと理解できるかどうか確認できるので、心配せずに済みます。

あなたへの ヒント

Q：Haさんは日本語の勉強を頑張っていたと話していただきましたが、日本語があまり話せないと日本での生活に何か問題がありますか。

A：日本語ができなくても、スーパーに行ったり、電車に乗ったり、生活上で大した問題はないでしょう。ただし、生活を楽しみ、良い思い出を作りたいなら、日本語が必要かもしれません。日本語ができたら、自分で病院にも行けますし、どこか遊びに行くときも、誰にも頼らずに自分でいろいろな体験ができます。



Haさんが自分の学生に伝えていたように、職場で指示を受けた時、その指示の内容をきちんと確認することはとても大切です。

「スアン日本へ行く！」*ドラマの第11話で主人公のスアンはマネジャーに電球の交換を頼まれました。その時、マネジャーに「なるべく早くお願いします。」と言われました。スアンは、電球の交換以外にも他の仕事がたくさんある状況ですが、「なるべく早く」とはいつまでに交換しないとイケないという意味なのでしょうか。このマネジャーのように、日本の職場では、日本人と話すときと同じ感覚で外国人に対しても無意識のうちに曖昧な指示をしてしまう場合もあるかもしれません。スアンはどのように解決したか、ぜひ番組をご覧ください。

<https://www.hikidasu.jpf.go.jp/jp/corner/drama/11/>

* 「スアン日本へ行く！」は国際交流基金が作成した日本語学習番組「ひきだすにほんご」の一つのコーナーです。